

特別講演 1

「新しい高血圧治療ガイドラインから考える

日本人の高血圧治療」

勝谷医院 院長

大阪大学大学院 臨床遺伝子治療学 招聘教授

勝谷 友宏 先生

高血圧をどこまで下げるべきかという問題に関しては、米国で発表された SPRINT 試験の結果を受けて、米国の高血圧の基準は 130/80mmHg へと引き下げられ、降圧目標も厳しく設定された。欧州では、血圧基準の変更は行わない一方で、やはり降圧目標は全般に厳しく設定された。新しく発表された高血圧治療ガイドライン 2019 でも、血圧の分類や降圧目標が変更され、個人の状態に合わせて、より厳格な降圧目標を目指す流れは世界的なトレンドとなってきた。

本講演では、血圧測定の方法や水銀血圧計の取り扱い、SPRINT 試験で使われた AOBP という血圧の意味、食塩摂取を減らすために尼崎でどのような取り組みを展開しているか、などにも触れながら、実地医家の立場から、高血圧パラドックスにどのように対応し、患者さんの究極の目的である健康寿命の延伸に貢献できるのか、先生方と一緒に考えてみたい。